

2026年2月6日

神奈川県藤沢市
日揮ホールディングス株式会社
株式会社レボインター・ナショナル
合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY

藤沢市と持続可能な社会の構築に向けた 廃食用油の資源化促進に係る連携及び協力に関する協定締結

神奈川県藤沢市、日揮ホールディングス株式会社（以下「日揮 HD」）、株式会社レボインター・ナショナル（以下「レボインター・ナショナル」）ならびに合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY（以下「SAFFAIRE SKY ENERGY」）は、持続可能な航空燃料 SAF 等の原料となる使用済み食用油の資源化促進を図るため、本年1月30日付で「持続可能な社会の構築に向けた廃食用油の資源化促進に係る連携及び協力に関する協定」（以下「協定」）を締結しました。



協定締結式の様子（左から SAFFAIRE SKY ENERGY の西村勇毅最高執行責任者 COO、藤沢市の鈴木恒夫市長、日揮 HD の秋鹿正敬専務執行役員、レボインター・ナショナルの中西課長）

【協定締結に至った経緯】

藤沢市は、廃食用油の資源化を2007年度から実施していますが、より積極的な資源循環の取組についての発信が期待できることや資源循環の見える化を実現することが可能と考えられることから、日揮 HD が事務局となっている「Fry to Fly Project」に参加しました。また、脱炭素社会の実現に向けてのさらなるごみの減量や資源化を促進するため、協定を締結することになりました。

【協定の主な内容】

- (1) 家庭系廃食用油の回収に関するここと
- (2) 廃食用油を用いた SAF 等の製造に関するここと。
- (3) 本再資源化を広く情報発信する機会の提供に関するここと。
- (4) その他、本協定の目的を実現するために必要なこと。

【協定に基づく具体的な取り組み】

藤沢市では、廃食用油は週1回の収集頻度で戸別収集を実施しており、排出負担の少ない環境を整えていることから、他自治体と比べ収集量が多い状況です。今回の協定に基づき、藤沢市が回収した廃食用油の一部を国産 SAF の原料として資源化し、取組内容について積極的に発信してまいります。

表 藤沢市の廃食用油

単位：トン

年度	R2	R3	R4	R5	R6
回収量	223	197	188	183	152

【国内初の SAF 大規模生産事業の概要】

日揮 HD とレボインターナショナルは、コスモ石油株式会社と共に、国内における廃食用油の収集から SAF の製造・輸送・供給に至るまでのサプライチェーン構築に向けて事業化検討を進め、2022 年に新会社 SAFFAIRE SKY ENERGY を設立しました。24 年 12 月にコスモ石油堺製油所（大阪府堺市）内において SAF 製造装置の建設が完了し、25 年 4 月から SAF の供給も開始しています。供給する SAF は、国際的な持続可能性認証である ISCC CORSIA 認証を取得しています。



SAF 製造装置



SAF の原料となる廃食用油受け入れ施設

【役割や体制】

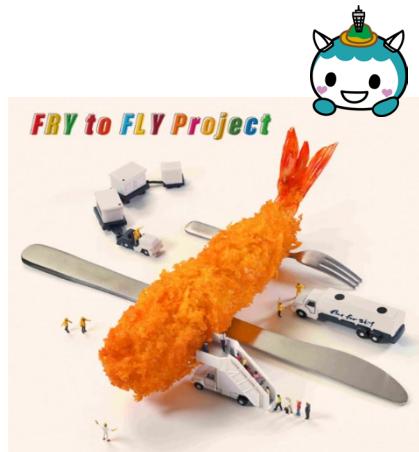


【Fry to Fly Projectについて】

「Fry to Fly Project」は、家庭や店舗などで発生する使用済み食用油を原料とする SAF を用いて、航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクトです。プロジェクトは日揮 HD が発起人となって設立し、設立主旨に賛同する企業・自治体・団体が、家庭や飲食店など身近なところで発生する廃食用油の提供を通じて、日本国内における資源循環の促進に直接参加しています。

特設ホームページ :

<https://www.jgc.com/jp/esg-hsse/initiative/fry-to-fly/>



以上